

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

給食甲子園、企業が支援

郷土料理で食育

「全国学校給食甲子園」というイベントがあります。郷土料理の給食を競う大会で、地産地消や地域活性化などを目指して2006年から開かれています。学校で食育の推進を担当する教職員と調理員の計2人が1組となって献立を作り、審査を受けます。

給食を教材にバランスの取れた食事の重要性を教えたり、郷土の料理を通じて地域の歴史や社会を学ぶきっかけにしたりする学校もあります。

毎日の食事は心と体を育みます。農家や漁業者の苦勞を知って、食事を作ってくれる家族との関係を考えることにもつながります。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産への登録が決まった和食は、健康にも良いとされます。しかし家庭で食卓に出てくるのはハンバーグやスパゲティなどが多いのではないのでしょうか。給食甲子園の献立を見ていると、伝統的な家庭の和食は今では学校給食が担っているのではないかとさえ思ってしまう。

給食甲子園の活動は、味の素、東京ガス、ヤクルト本社、キッコーマンなどの企業が支援しています。

公立学校や私立学校の教職員の年金基金はそれぞれ数兆円という巨額の資金を運用しています。老後を支えるお金ですから株式や債券などで運用する際には、損をしないように工夫するのはもちろんです。しかし、それだけでなく、教育を支援する会社を高く評価して投資する動きが年金基金に広がれば、企業も教育活動により積極的に関与しようと考えられるようになるでしょう。（株式会社グッドバンカー）